

# ダムNEWS



鳥海ダム完成イメージ

合理化施工として定着した台形CSGダム。今後注目の着工は、堤高81mとこれまでで最も高い鳥海ダム。CSG工法は海外でも関心が高まっており、シアトルでの国際ダム会議年次例会で、新たにCMD (Cement Materials Dam) の委員会が設置された。エジプトではワジ(酒粕川)でのFlash Flood対策として、CSGダムを検討しており、昨秋、日本から調査団が行った。一方、福島県いわき市の海岸に初めて適用されたCSG海岸堤防。現在、浜松市の海岸で建設中、仙台湾南部でも津波堆積物を活用したCSG海岸堤防建設が始まった。

CSG技術  
海へ、ワジへ、鳥海へ



認定記念のダムカード

鳥根県が管理する「三成(みなり)ダム」が、2015年度土木学会選奨土木遺産に承認されたのを受け、11月7日、奥出雲町で記念式典が開かれた。同ダムは建設省鳥根砂防工事事務所(当時)により1954年に完成した砂防、発電の兼用ダム。選定理由「わが国における最初期の本格的アーチダムで、中央のアーチと両岸の重力式が連結した希少性」などが評価された。式には2000年制定の選奨土木遺産認定制度にかかわった馬場俊介岡山大学名誉教授、施工した森本組の関係者も祝いに駆け付けた。

土木遺産に

最初期の本格アーチ

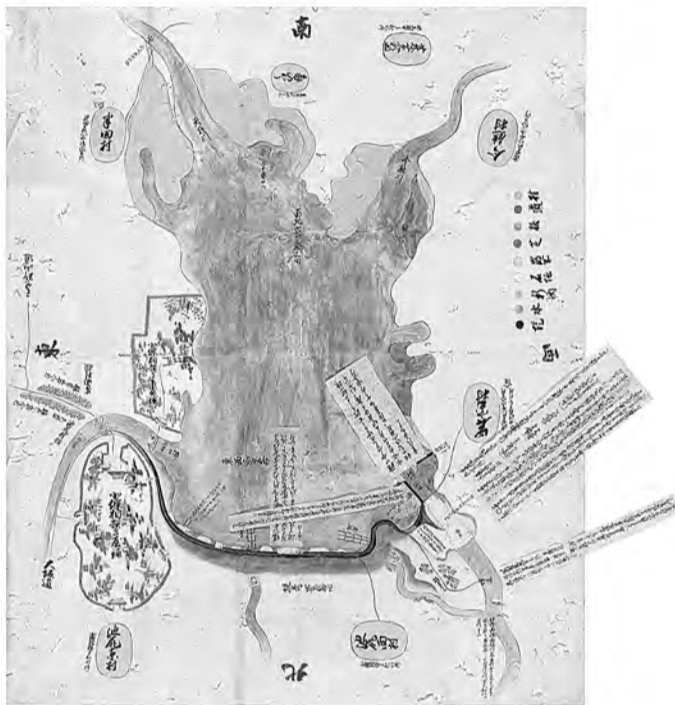
## 第6回ものづくり日本大賞 鶴田ダム 浮体式仮締切に総理大臣賞



政府の第6回ものづくり日本大賞で、国土交通省九州地方整備局鶴田ダム再開発事業の、滝口紀夫(鹿島)、高田悦久(同)、神藤拓也(日立造船)3氏による「浮体式仮締切工法(ダム再開発工事の大幅効率化)」が、内閣総理大臣賞に輝いた。表彰式は11月9日、東京都千代田区的首相官邸で開かれ、安倍晋三首相が直接、受賞者に表彰状を手渡した。

来年は築造1400年

## 『近世狭山池絵図』展開催中



大阪府立狭山池博物館(大阪狭山市)は12月6日まで、特別展『近世狭山池絵図』を開催している。近世の狭山池では、自然災害で甚大な被害を受けた狭山池の維持管理に、水下(みずしも)農民が従事したが、その実像を伝える史料が今回の絵図だ。「池守田中文書」を中心に、池や水地区の景観図、改修関係絵図の特集を組んだ。災害復旧に果敢に立ち向かい、公儀を動かすとともに、自らが生命と地域を守ってきた水田農民の底力を伝える。写真真は寛保元年(1741年)の「河内国丹南郡狭山池絵図」(同館提供)。

『ダムマンガ』電光掲示板に  
下久保ダムの「お知らせ」で



今夏、緊急放流などを知らせるダム防災用電光掲示板に、漫画『ダムマンガ』のキャラクターが映し出され、「お知らせ」を呼びかけた。「森と湖に親しむ旬間」(7月)に合わせて水資源機構の下久保ダム管理所が実施。ダムマンガは、自身ダムファンの井上よしひさ氏が、月刊YOUNG KING AワーズGH(少年画報社)で連載しており、ダムが好きな女子高生たちを主人公として、ダムの魅力・果たす役割・面白さを伝える作品。コラムはダムマニア宮島映氏が執筆している。旬間終了後、電光掲示板は「節水」や「交通安全」を呼び掛けている。

『ダムの科学』

## 「バイブル」1万冊を超える



発売からちょうど3年。ダムのバイブル『ダムの科学』が販売数1万冊を超えた。サイエンス・アイ新書シリーズで、角哲也京都大学防災研究所教授を中心にダムのエキスパート20人が執筆。ダムとは何か、歴史、基本と特徴、最先端技術、運用と維持管理などについて、コラムを含め分かりやすく解説されている。一般の人はもちろん、ダム技術者にも興味深く貴重な情報が得られると広く支持を受けている。来年度ダム学会賞の著作賞候補になっている。

「技術史作成中」

## ダム役割委も始動

ダム学会は25周年記念事業として『ダム技術史』作成を進めている。ダム技術の発展・変遷を体系的に整理するため、国土交通省、農林水産省、各電力会社などのエボクメーキングな事例を集め、その技術が生まれた背景、技術史上の位置付けなどを、2年をめぐりまとめる。ダム技術史研究部会中村靖治部会長が担当している。一方、濱口達男学会長が自らの任期中にまとめたという「これからの成熟社会を支えるダム貯水池の課題検討委員会(濱口委員長)」もスタート。ダムの機能維持・向上のための計画・運用上の課題について提言をまとめる。

C MED会

## 登録末番は783に

合格率30%の難関、ダム工事総括管理技術者(CMED)認定試験に、10月10人が合格した。登録末番は783となった。ダムの建設数が年々減り、かつて年間100人を超えた受験者数も最近20~30人にとどまっている。それでも、合格者はダム技術者のあがりの存在であり、そのネットワークであるCMEDは、会社の垣根を越えた求心力・発信力をもた、大きなプロジェクトを統率できる技術者集団として発注者の信頼は厚い。資格制度は1982年にでき、既に引退者もいるが、11月1月末で536人の資格者がいる。この中で、ダム現場に幹部として配置されているのが129人、本社・支店の管理部門218人、ダム以外の現場が108人。海外のダムにも4人いる。ダム以外で、特に東北の復興支援や大規模現場では42人が現場運営を担っている。CMEDの資格を持つだけでもダム現場の最前線に立っているのは4人に1人だ。「検証」が済んで、ダム発注が再開され、資格者不足が顕著になってきた。また、発注者・コンサル側のダム技術者不足を背景に、OB活用も含めCMEDによるコンサル代行業務にも、活躍のステージが広がっている。

\* Certified Chief Managing Engineer for Dam construction の略

# 現場見学会 学びのフィールド



和食ダム—親子、日本建設業連合会四国支部、7月24日



五ヶ山ダム—親子、日本建設業連合会九州支部、7月30日



五ヶ山ダム—大牟田高校、福岡建設業協会、11月6日



天ヶ瀬ダム—立命館大学、日本建設業連合会+近畿地方整備局、11月5日

憲法についての座談会とか、ダム建設工事現場の写真とかいったものが、「憲法」や「ダム建設」に対する好奇心を刺激します。(中略)そこで「憲法」に関し、また「ダム建設」に関して、まとまった知識を読書によって得ようという欲求がおこっても、ふしぎではない。  
—加藤周一『読書術』(1962年)—



大分川ダム—大分工業高等専門学校、日本建設業連合会九州支部、11月11日

(見学したダム=対象、主催、実施日)